平成22年7月27日

**第３回将来交通需要推計検討会議の概要**

-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

日時：平成２２年７月２７日（火）　１１時００分～１２時００分

　場所：４階省議室

　出席：馬淵国土交通副大臣

長安国土交通大臣政務官、

津川国土交通大臣政務官

政務三役政策審議室　大野政策官

道路局　企画課道路経済調査室　七條室長

鉄道局　総務課企画室　髙田室長、施設課　高橋課長

港湾局　計画課　真田港湾計画審査官

航空局　空港部計画課　長谷川空港計画企画官

　　　（事務局）技術調査課　池田技術企画官、公共事業調査室　長田室長

-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○本検討会議で確認された事項は以下の通り。

１．第一段階の改善について

　①将来フレーム・入力値の統一

　・将来の実質GDPは、直近10年間の平均変化量を用いて推計する。

②推計年度及び交通サービス水準想定の統一

1)推計年度はH32年度（2020年度）及びH42年度（2030年度）とする。

2) 推計年度における交通インフラ及び交通サービス指標は以下の考え方に沿って設定する。

・ネットワークの設定については、現況に加え事業化済みの箇所を考慮。

・所要時間・運行頻度については、現況を基本とし、将来の変更が明確に予定されているものはこれを考慮。

・費用については、割引を考慮した現在の料金水準を基本とし、将来の変更が明確に予定されているものはこれを考慮。

・有料道路事業の認可を受けた事業については、有料道路前提とする。

③生成交通量推計の改善

1)国内旅客の生成交通量の推計を以下のとおり分野間（道路・鉄道・空港）で統一。

・人口、GDPを説明変数とした生成交通量モデルで推計。

・アクセシビリティ指標については、生成交通量推計段階の説明変数に使用しない。

2)国内貨物の生成交通量の推計を以下のとおり分野間（道路・港湾）で統一。

・推計時の貨物の 品目分けについて10品目に統一。

・国内生産額・輸入額については、GDPを説明変数とした推計モデルで算出。

・輸送量については、国内生産額・輸入額を説明変数とした推計モデルで算出。

２．第二段階の改善（統合モデルの方向性）について

　　・旅客、貨物ともに、①生成交通量、②発生交通量、③分布交通量、④分担交通量の推計プロセスを統合するとの方向性を確認。

　３．その他

　　・改善したモデルの呼称を検討すること。

　　・公表時期及び方法について適切に調整すること。

以上